

39. シイタケ栽培試験

(2) 市販菌現地適応化試験

桃澤 邦夫

〔目的〕

市販のシイタケ菌は種菌メーカーから次々新しい品種が発表されている。その新品種は現在出回っている品種の後継品種として発表されることが多い。そこで、新在の品種を本場の日の出試験林で栽培し、都内における適応化について試験を行う。

〔方法〕

供試種菌は表-1に示すとおり、4類型で各類型内の2品種を対照として選定し、10区を設定した。今回の報告はこの中でほだ付試験について行う。

'94(H6)年4月にコナラ原木に市販菌を接種し、9月下旬に各区から5本の試料を抽出して試験に供した。材部表面のほだ付率については、剥皮し材部表面の帯線をトレッシングペーパーに写し取る方法とした。また、中央部20cm区間における横断面についても計測した。以上は申し送りにより前任者の試験設計指示書に従った。

次に、ほだ付率を別の角度から算定するため、図-1に示すように試料のほだ木を分割して断面の帯線界を区分しコピー機により写し取り、面積を計測した。ほだ木の分割に際しては、ほだ木長のバラツキと従前からの方法との併用から変則的な寸法割付となった。

前述の横断面については、実際に数個のテストピースの計測から、10cm間隔に入った分割断面から推定しても誤差はほとんどみられなかったので、あらかじめ横断面線位置を材表面にマークし、分割断面(円形)を通過する横断面線上の帯線幅を計測して算出した。面積の測定は葉面積計を使用した。

試料の抽出に当たっては、ほだ木の直径分布から幅広く選定し、各区とも同様な径を揃えるため事前にほだ木Noを選定し、現場においての主観を排除する努力をした。また、補足調査として原木表面の雑菌被度を目視計測して10段階に区分した。

〔結果〕

従前からの方法にしたがった結果を表-2に示す。抽出した試料では、全体的にはほだ木が太くなるに従い横断面のほだ付率が下がる傾向にあった。類型内の比較では、数値の差はみられたが、品種による差異かどうかは不明である。

図-2は材表面の図-3は立体的な菌の占有比率を示したものである。帯線及び樹皮表面の子実体等から区分できた菌はシイタケと害菌のダイダイタケ、クロコブタケの3種であった。図-2, 3を比較すると未伸長部分を除外した害菌の出現パターンは比較的良く類似していた。立体的にみるとほだ付率の低い試料は未伸長の部分が多い傾向にあると思われる。

補足調査により、抽出した試料が各区でどのような位置にあるかを検討した。図-4によると、抽出試料は害菌が存在するほだ木が比較的多いように思われた。

立体的なほだ付率は従前からの方法より、詳細な情報が得られると思われるが、多大な労力がかかるのが難点である。

表-1 シイタケ市販菌現地適応化試験の概要

ノカ	菌 品 種	接種タイプ	接種本数	ほ だ 木 規 格 (cm)				接種	ほだ付調査	備 考
I 類	Y602号	オガ	30	φ 5.0~13.4cm	φ=8.34cm	ℓ=90cm内外	Vg=0.0067m ³ δ=0.00383	94(H6) 4/19~26	各区から 5本抽出	(補足調査) 原木雑菌検度調査 95(17) 2/2
	Y602号	駒	30	φ 6.5~13.3cm	φ=9.73cm	ℓ=90cm内外	Vg=0.0090m ³ δ=0.00356			
	465号 (対照)	駒	30	φ 5.5~21.0cm	φ=8.72cm	ℓ=90cm内外	Vg=0.0086m ³ δ=0.00787			
II 類	Y763号	オガ	30	φ 4.9~12.5cm	φ=7.44cm	ℓ=90cm内外	Vg=0.0053m ³ δ=0.00299			
	Y763号	駒	30	φ 5.3~15.0cm	φ=9.12cm	ℓ=90cm内外	Vg=0.0083m ³ δ=0.00511			
	440号 (対照)	駒	30	φ 6.1~13.2cm	φ=9.45cm	ℓ=90cm内外	Vg=0.0082m ³ δ=0.00299			
III 類	秋山 A500号	オガ	30	φ 5.5~15.5cm	φ=8.00cm	ℓ=90cm内外	Vg=0.0063m ³ δ=0.00416			
	秋山 A567号 (対照)	オガ	30	φ 5.9~13.3cm	φ=8.81cm	ℓ=90cm内外	Vg=0.0075m ³ δ=0.00394			
IV 類	秋山 A589	オガ	30	φ 6.0~16.0cm	φ=8.87cm	ℓ=90cm内外	Vg=0.0076m ³ δ=0.00470			
	秋山 A580 (対照)	オガ	30	φ 5.7~12.3cm	φ=8.21cm	ℓ=90cm内外	Vg=0.0059m ³ δ=0.00252			

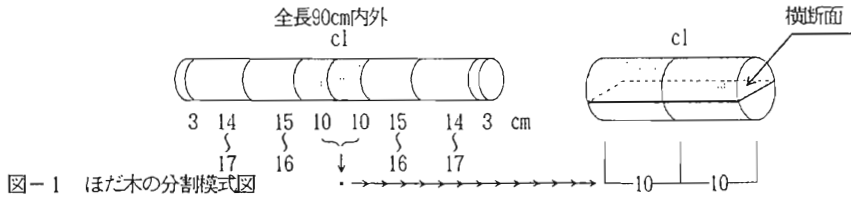


図-1 ほだ木の分割模式図

表-2 表面及び横断面におけるシイタケのほだ付率 (従前からの方法)

区 分	I 類				II 類				III 類				IV 類							
	Y602#		Y602#		465#		Y763#		Y763#		440#		A500#		A567#		A580#		A589#	
単位: cm %	表面	横断	表面	横断	表面	横断	表面	横断	表面	横断	表面	横断	表面	横断	表面	横断	表面	横断	表面	横断
φ 6.0~6.6	90.6	100.0	96.1	100.0	92.5	61.1	96.7	93.1	97.2	78.1	92.8	85.5	86.7	62.2	97.6	71.3	97.6	100.0	95.2	97.8
φ 7.0~7.2	96.5	100.0	81.1	56.6	99.2	100.0	92.3	100.0	98.5	67.6	98.7	51.6	90.6	100.0	98.2	87.8	94.8	74.0	97.3	100.0
φ 7.9~8.3	95.5	100.0	79.8	81.9	63.1	37.2	97.3	29.4	98.9	49.0	97.2	60.6	99.7	88.6	99.2	32.9	95.6	100.0	68.4	87.6
φ 9.6~11.2	95.8	58.6	99.3	100.0	91.3	52.9	98.4	28.7	78.9	47.4	63.9	15.5	72.5	45.7	96.0	28.7	66.7	25.7	70.5	45.0
φ 12.0~13.5	91.2	22.1	96.5	61.5	98.8	28.2	94.7	36.1	89.3	15.3	97.2	14.4	23.6	13.1	83.3	16.4	69.9	3.0	72.8	21.0

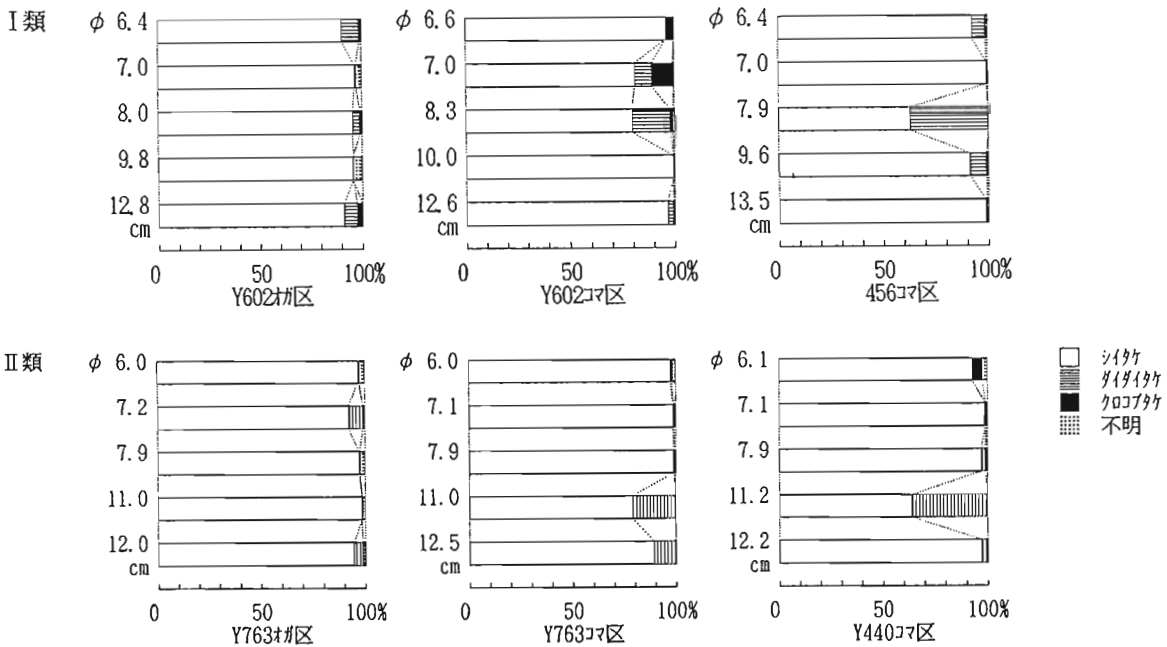
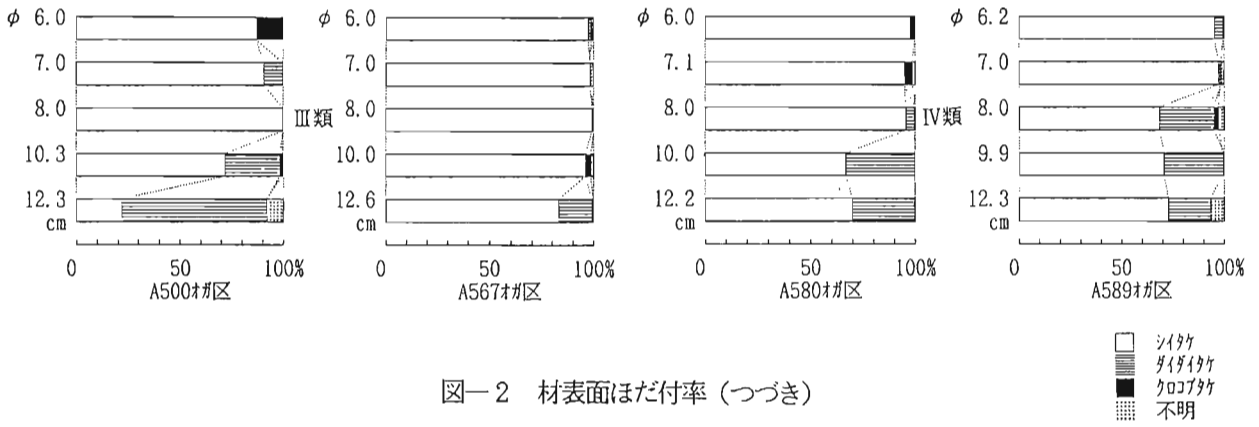
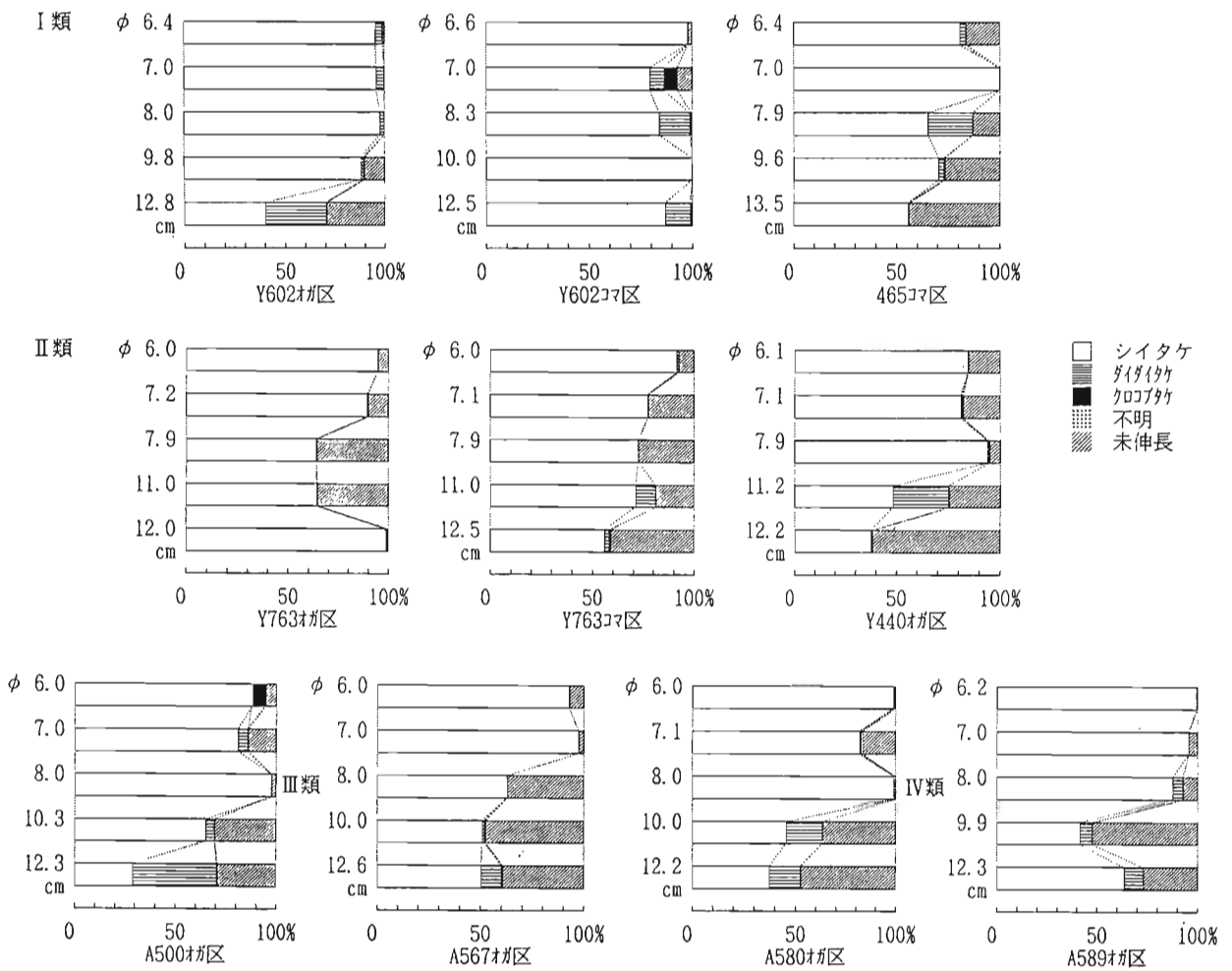


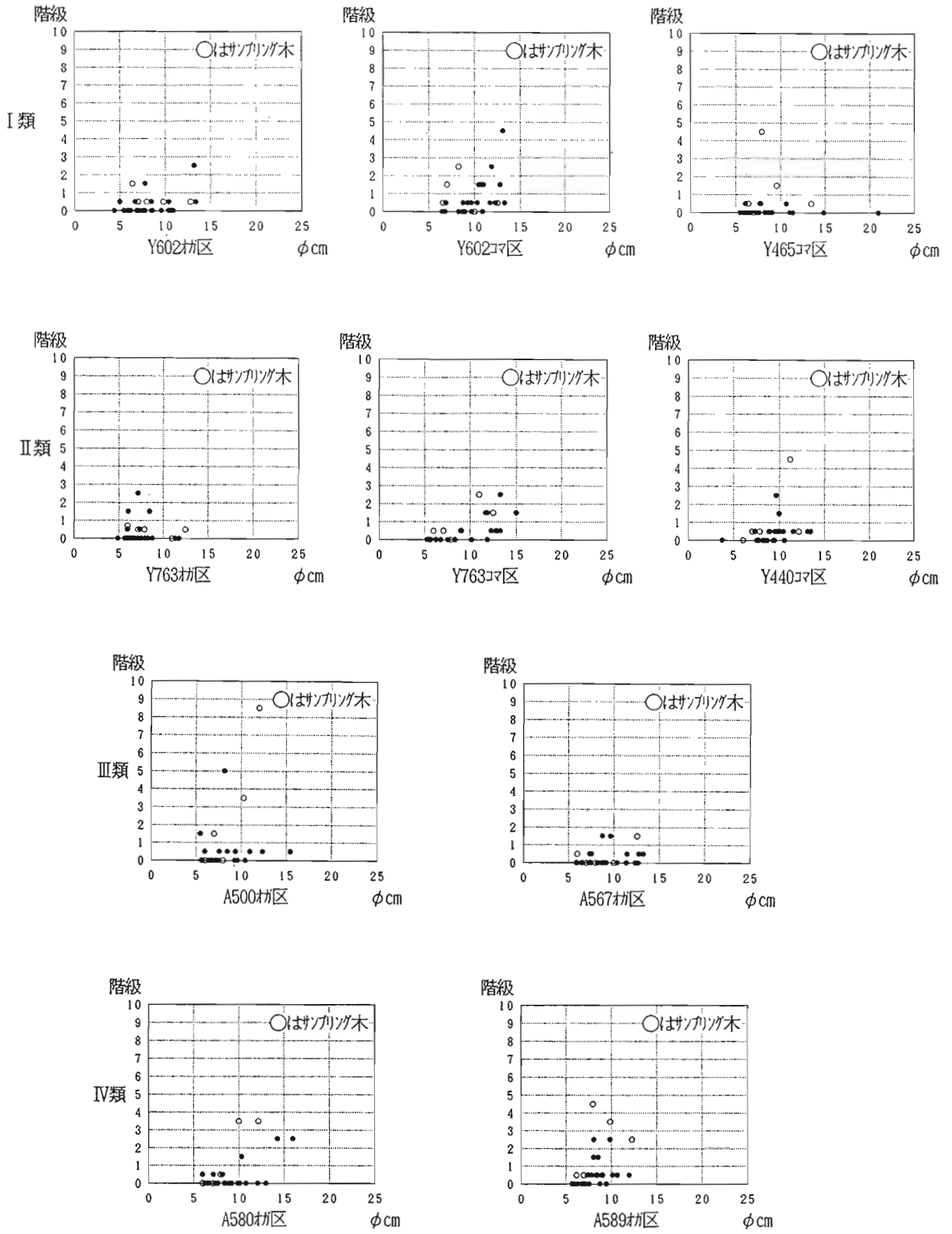
図-2 材表面ほだ付率



図一 2 材表面ほだ付率 (つづき)



図一 3 体積ほだ付率



図一 4 ほたき木表面の害菌発生状況